

今号の主な内容	
2面	区政モニターを募集
3面	認知症になっても安心して暮らせるまち
4面	新エネルギー・省エネルギー機器等の導入費用を助成
5面	ふれあい入浴証の更新
6面	バイク・軽自動車等の廃車手続きは3月29日までに
8面	新宿歴史博物館特別展 中村彝展 下落合の画室(アトリエ)

広報 しんじゅく

「新宿力」で創造する、
やすらぎとにぎわいのまち

平成25年(2013年)

3・15

第2061号

発行 新宿区 編集 区政情報課 (毎月5・15・25日発行)
〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1 ☎(3209)1111
ホームページ <http://www.city.shinjuku.lg.jp/>
携帯電話版 <http://www.city.shinjuku.lg.jp/m/>



携帯電話用二次元コード



しんじゅくコール

☎(3209)9999 FAX(3209)9900
土・日曜日、夜間もご案内 午前8時～午後10時



▲アトリエ棟と管理棟(右奥)

★ 3月17日(日)オープン

つね 中村彝 アトリエ記念館



▶中村彝(天正12年)

中村彝 略歴

明治20年(1887年)、茨城県水戸市生まれ。11歳で上京して牛込原町などに住み、愛日小・私立早稲田中で学ぶ。陸軍軍人を目指す。17歳で肺結核となり断念し、洋画家を志す。

明治44年(1911年)、新宿中村屋の相馬愛蔵・黒光(こっこう)夫妻の厚意で中村屋裏のアトリエ(新宿3丁目)に転居するが、相馬家の長女・俊子との恋愛を反対されたことから、大正5年(1916年)、下落合にアトリエ兼住居を新築。結婚と闘いながら代表作「エロシエンコ氏の像」(重要文化財)などを制作するが、大正13年(1924年)、37歳の若さで死去。

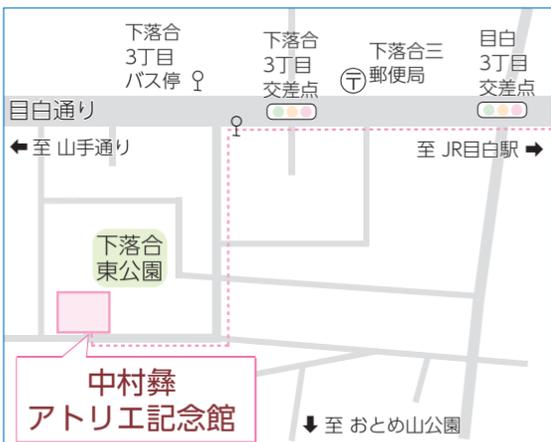
明治の終わりから大正期に活躍した洋画家・中村彝(1887年～1924年)は、大正5年(1916年)、下落合にアトリエ兼住居を新築し、ここで数々の作品を生み出しました。

下落合に残るアトリエは彝の没後、友人や弟子たちの手で守られ、後に画家の鈴木誠(1897年～1969年)の所有となり、増改築を繰り返しながらも、大切に住み継がれてきました。

このアトリエを復元し、「土地の記憶」「まちの記憶」として未来に継承していくため、記念館として整備しました。整備に当たっては、地域の皆さんや公募の区民、学識経験者などが参加してワークショップを開催し、「大正5年のアトリエを復元する」という整備方針をまとめました。区ではこの方針を踏まえて、記念館の整備を進めてきました。

アトリエの建築当時をイメージした記念館で、「中村彝」の世界に触れてみませんか。

【問合せ】文化観光課文化資源係(本庁舎1階)
☎(5273)3563・FAX(3209)1500へ。



中村彝
アトリエ記念館

【所在地】下落合3-5-7(JR目白駅徒歩10分、都バス「白61系統」「池65系統」下落合3丁目バス停徒歩3分)駐車場はありません。

【電話番号】☎(5906)5671(3月17日(日)から)

【開館時間】午前10時～午後4時30分(入館は午後4時まで)

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日が休館。3月は18日・25日が休館)、年末年始

【費用】無料

記念館の開館に合わせ、新宿歴史博物館(三栄町22)では特別展「中村彝展 ～下落合の画室(アトリエ)」を、3月17日(日)から開催します。8面でご案内しています。



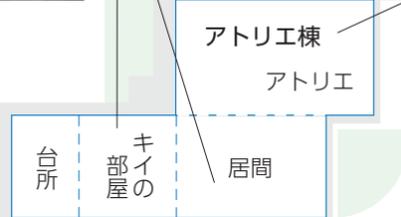
大きな北窓があるアトリエ

●彝の身の回りの世話をした岡崎キイの部屋

居間 彝の生活空間であり、療養の日々を送った部屋です。長時間の創作が難しかった彝は、病床から庭の芝生や木々の緑を眺め、身体を休めました。この部屋では彝の生涯や作品を高解像度の映像で紹介しています。

アトリエ 床や天井、壁の腰板など、建築当時の部材を再利用して復元したアトリエそのものが、記念館最大の見どころです。イーゼルや家具など、茨城県近代美術館所蔵の彝の遺品の複製品も展示し、創作していた当時の雰囲気再現しています。

展示室 彝の生涯や画業をパネルで紹介しています。記念館には彝の作品の展示はありませんが、代表的な作品を高精度の写真パネルでご覧いただけます。このアトリエで亡くなった翌日に制作されたデスマスク(複製)も展示しています。



芝生の庭

芝生の庭 花壇や藤棚を造ったり、書簡の中で庭の植物に触れるなど、彝は庭にもこだわりを持っていました。彝が眺めた当時の風景を伝えられるようイメージして庭を整備しました。



管理棟(展示室)

入口

新宿 まち・人・しごと

東日本大震災から早2年。すっかり復興を果たし、子どもたちの生き生きとした笑顔あふれる日本をつくるのが私たちの責務です。そして、その姿を2020年のオリンピック・パラリンピックで世界の人々に披露できれば、とてもうれしいことだと思います。▼明日16日から、東京メトロ副都心線が横浜まで直通運転され、埼玉・東京・神奈川を結ぶ新しい動脈が誕生します。新宿の後背地が大きく南に広がります。新宿を訪れる方がゆつくりと楽しめ、また来なくなるワクワクするまちにしていきたいことが、より一層求められています。

▼17日に新宿区は、上の記事でご案内しているように、中村彝(つね)アトリエ記念館を開館します。まちの記憶である歴史や文化を大切にすることは、住むことに誇りを持つ暮らしやすさのまちとしていくため、また、まちを訪れる方に、そのまちのファンになってもらいたい、リピーターとなってもらいたい、に、欠かすことのできないものです。▼ゆつくりと一日を過ごすことのできる趣のある土地の記憶やまちの記憶が、多くの人々の心をひきつけます。新宿の持つ歴史や文化は、新宿区が持続的に発展していくための大切な成長エンジンとなります。▼今月のケーブルテレビの新宿区広報番組「こんにちは新宿区長です!」には、名誉区民の室瀬和美さん(漆芸家)や高階秀爾さん(美術評論家)にも出演いただき、落合の文化を語っていただきました。新宿には、身近なところにも歴史や文化があふれています。ぜひ、番組をご覧いただければと思います。

区長 中山 弘子
なかやま ひろこ